資料４

知床五湖の利用のあり方協議会（第 48 回）

知床五湖園地高架木道の再整備について

報 告 資 料

2026 年 3 月 17 日

環境省釧路自然環境事務所

１．基本設計に向けて

１）関係団体へのヒアリングの実施

知床五湖園地高架木道の再整備について検討するにあたり、以下のとおり関係団体の方々にヒアリングを行いました。

◯ヒアリング期間：令和７年（2025 年）９月９日～10 月 16 日

◯ヒアリング対象：10 団体　60 名程度

◯ヒアリング結果

２）ヒアリング結果（概要）

■高架木道の更新について

現在の高架木道が老朽化しており、更新の必要性があることは全関係者の共通認識であることが分かりました。

■現状の高架木道の課題や改善点

「木道幅の拡幅、待避所の増設など、人の通行に関する課題」

「木道（手摺）の“ささくれ”によるケガやトラブル」

への意見が多く出されました。

他にも、木道のバリアフリー（点字・車椅子利用者の目線確保）や、フォトサービスの向上、進行方向の明確化、緊急時に対応できる設備などの意見が寄せられました。

手摺には破損・ささくれが見られる

■高架木道の素材

「新たな木道の素材は、木材以外でもかまわない」

との意見でほぼ共通していました。

ただし、「景観になじむこと」「木に近い風合い」があることが求められました。

■木道の施工時期

「閉園時期」「冬期間」が望ましい

との意見でほぼ共通していました。

■木道以外の施設についての意見

- 高架木道入口へのゲート設置
- 緊急時の連絡手段整備（木道へのインターフォン設置等）
- サインの更新
- 入口の注意事項サインの強調
- ベンチや小休憩施設の増設、新設
- 地上遊歩道から高架木道にあがる回転扉の老朽化と改善、変更
- 地上遊歩道へ向かう管理上の出入口の設置

２．知床五湖園地高架木道の再整備について

現状の知床五湖高架木道は、平成 17～24 年度に整備され、世界遺産知床を代表する施設として多くの観光客に利用されています。しかし、令和６年度に実施した健全度調査の結果、全体的に劣化が進行していることが判明し、木道としての機能に支障が生じる恐れがあることから、更新が必要と判定されました。

この結果を踏まえ、今年度策定中の高架木道の再整備計画にあたっては、今後も木材を継続使用するか、あるいは耐久性の高い金属等の部材に変更するかについて、前述した関係者へのヒアリグ結果を参考に、比較検討を行ったうえで**「金属（アルミ）+再生木材」**で再整備する方針としました。

１）機能維持に関する検討

腐食や塩害に強く、高耐久であるアルミ製の構造材と、木材の風合いに近い再生木材を組み合わせる工法について比較検討を行いました。

«機能の比較»

	木材	金属(アルミ)+再生木材
事例写真		
仕様部材	構造材：道産木材 床　板：〃 手　摺：〃	構造材：アルミ材 床　板：再生木材 手　摺：アルミ格子＋再生木手摺
概　　要	・自然素材で景観に馴染む。 ・木材に防腐処理を施していたが、劣化が進行している。 ・“ささくれ” が発生し、利用者から苦情が寄せられている。	・構造にアルミ材を用い、床板、手摺材には再生木材を用いる工法。 ・軽量で施工性がよく、腐食に強い。 ・高耐久で、維持費用が軽減できる。
耐用年数	・17 年程度（実績値） ・部材交換や防腐剤塗りを等により 10 年程度の延命は可能。	・構造材 36 年程度 ・再生木材 35 年程度
コスト (木１：金属 1.6)	・初期コストはアルミ材+再生木材に比べ安価。 ・17 年で更新すると、ライフサイクルコストはアルミを上回る。	・初期コストは木材に比べ高価。
総　　評	・腐食・破損が生じやすく、修繕の頻度が高い。 ・更新までの期間が短い。	・腐食・破損し難く、修繕の頻度が低い。 ・更新までの期間が長い。
		採用

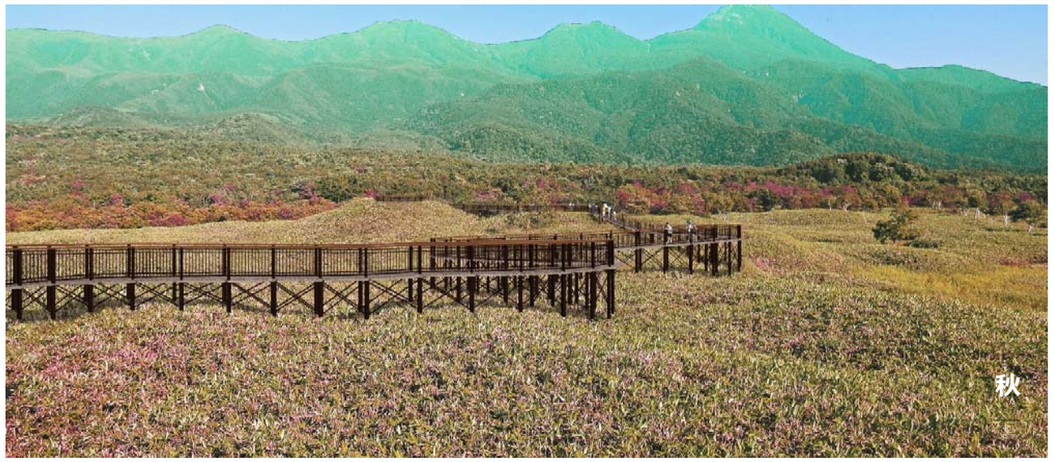
現状の高架木道

高架木道の再整備イメージ

2）景観への影響に関する検討

現状の高架木道

高架木道の再整備案



景観とは、単に目に見える景色や風景だけでなく、それを眺める人々がどう感じるかという主観的な要素も含む広い概念であることから、高架木道に関わる関係者からの意向も含め検討を行いました。

«景観の比較»

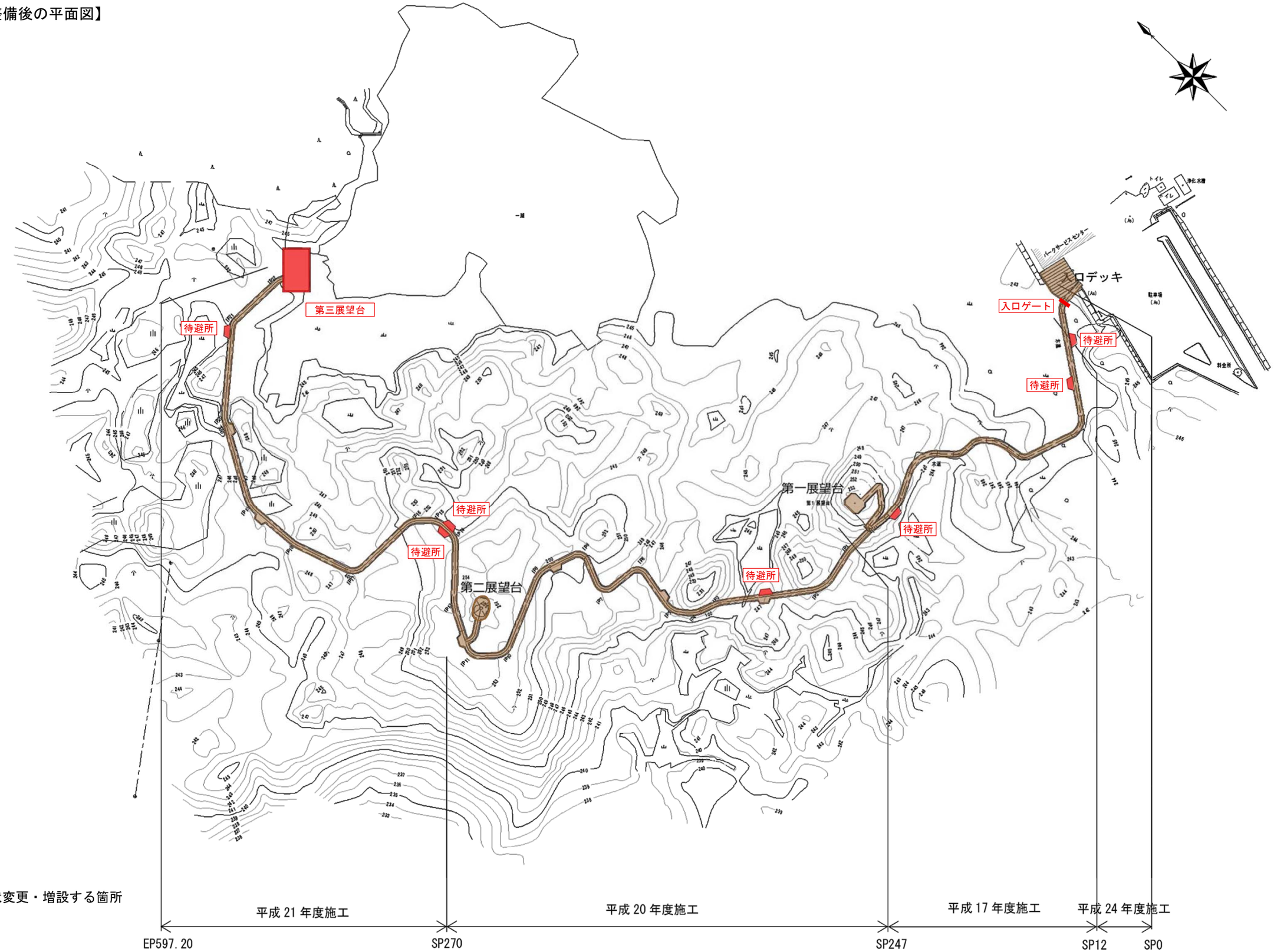
	木材	金属(アルミ)+再生木材
自然景観との調和	・天然素材であり自然と調和する。	・景観色によって自然と調和させる。
意匠の特徴	・金属に比べ部材の強度が劣るため、断面積が広くなる。（支柱や手すりが太くなる） ・格子部の透過性が低い。	・木材に比べ部材の強度が高いため、断面積が狭くなる。（支柱や手すりを細くできる） ・格子部の透過性が高い。
見晴らしの確保	・手すりや格子が太く、車椅子や子どもからの目線では、見晴らしが悪い。	・手すりや格子が細くなることで、車椅子や子どもからの目線からの、見晴らしが改善される。

3）仕様の変更

- 支柱･梁･桁：アルミ製（環境色塗装）
- 手　　摺：アルミ製格子（環境色塗装）＋上部再生木材（茶系）
- 床　　材：再生木材（茶系）
- 有効幅員：2m（現木道と同じ幅）

  木道の有効幅員は、拡幅による周辺の自然環境への影響と、事業費が大きく膨らむことを抑えるため、現状と同じ規格としました。なお、混雑時の対策として、待避場の設置箇所を７箇所増設します。
- 床　　高：基本的には現状の床の高さを維持します。

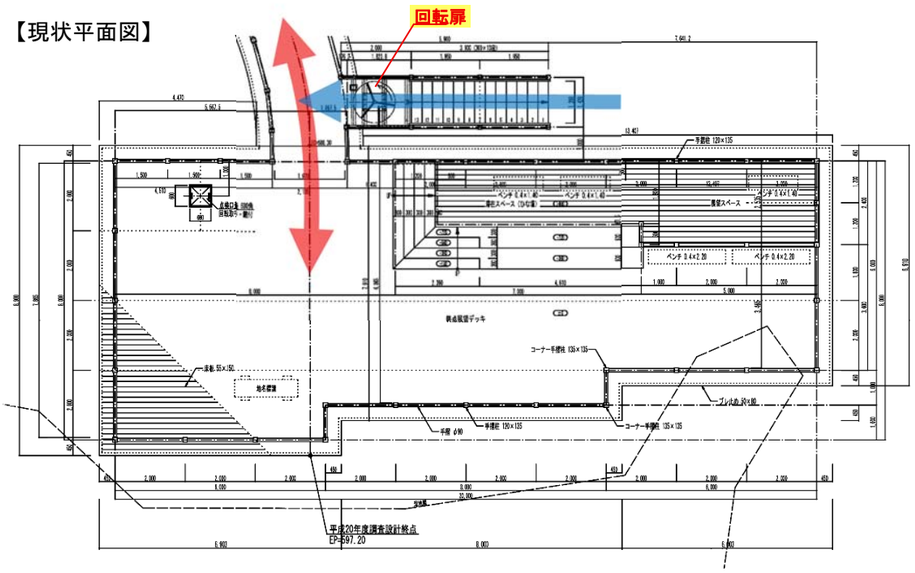
【再整備後の平面図】


第三展望台
待避所
待避所
待避所
待避所
待避所
待避所
第二展望台
第一展望台
入口ゲート
待避所
待避所
ロデッキ
ビジターセンター
トイレ
浄化槽
トイレ
駐車場
料金所
形状変更・増設する箇所
平成 21 年度施工
平成 20 年度施工
平成 17 年度施工
平成 24 年度施工
EP597.20
SP270
SP247
SP12
SP0

４）第三展望台：デッキの改修

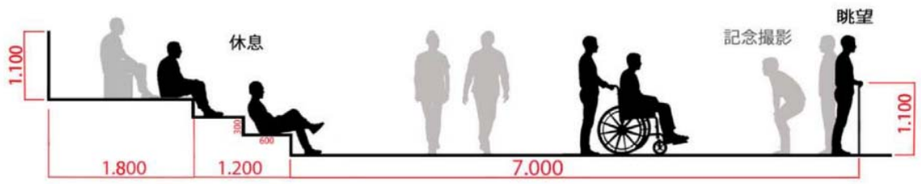
- 一湖を望むビューポイントで、多くの人が滞留する第三展望台を拡張します。
- 高架木道と地上遊歩道からの動線が交錯し、混み合う動線を整理します。
- 景観を阻害する回転扉は地上階に下ろし、眺望の視界に入らないようにします。
- 高架木道から地上遊歩道に向かって逆行しないよう対策を検討します。（右下検討案）

【現状平面図】

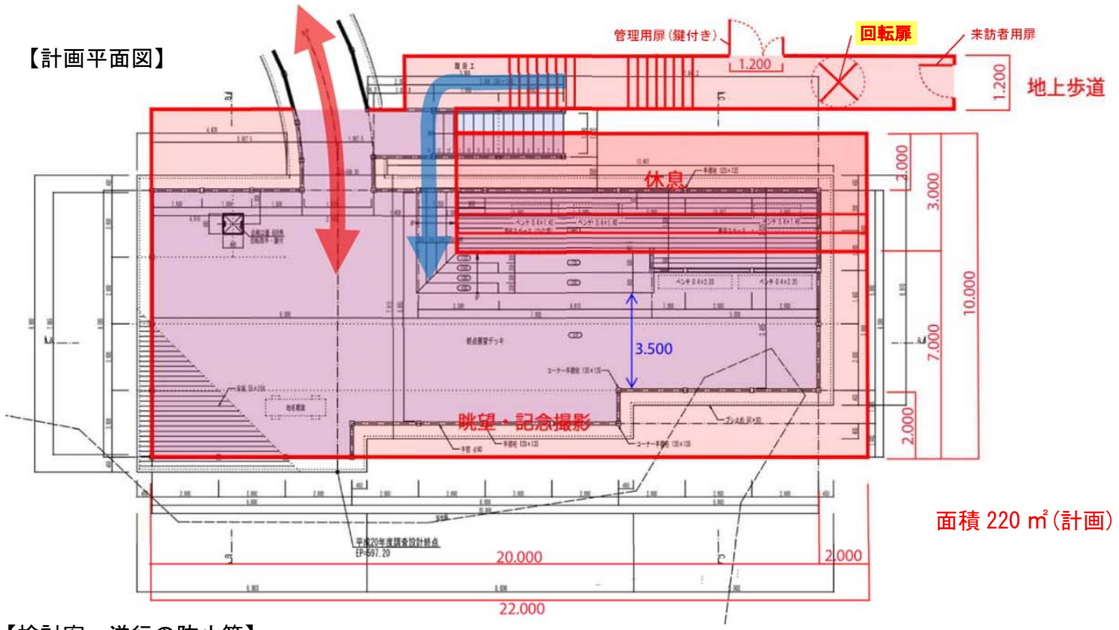


面積 140 ㎡(現状)

【断面図】

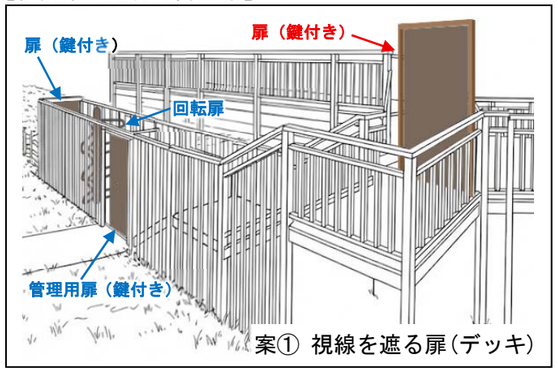


【計画平面図】

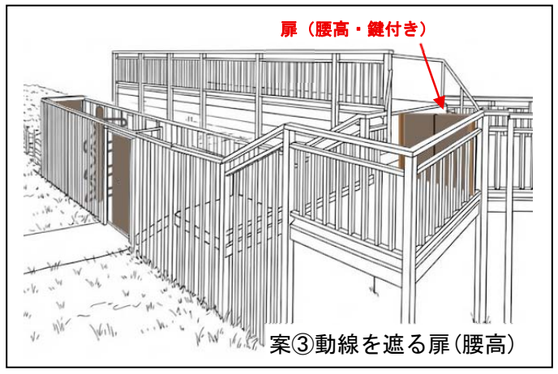


面積 220 ㎡(計画)

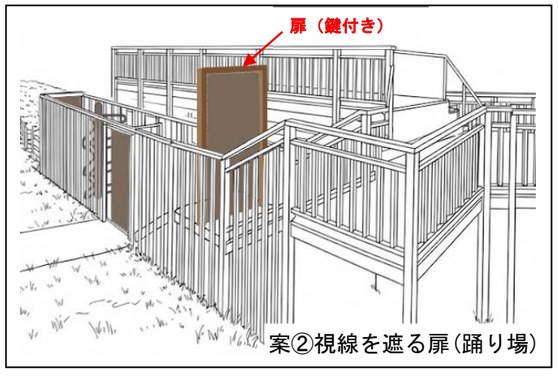
【検討案：逆行の防止策】



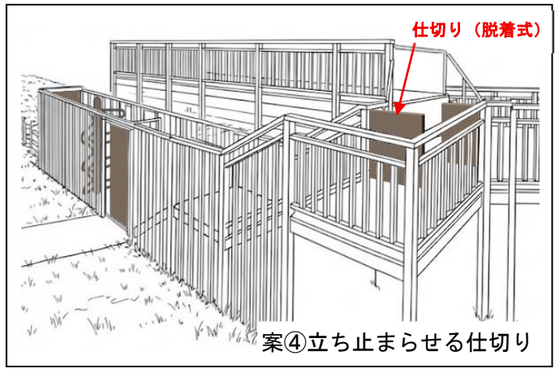
案① 視線を遮る扉(デッキ)



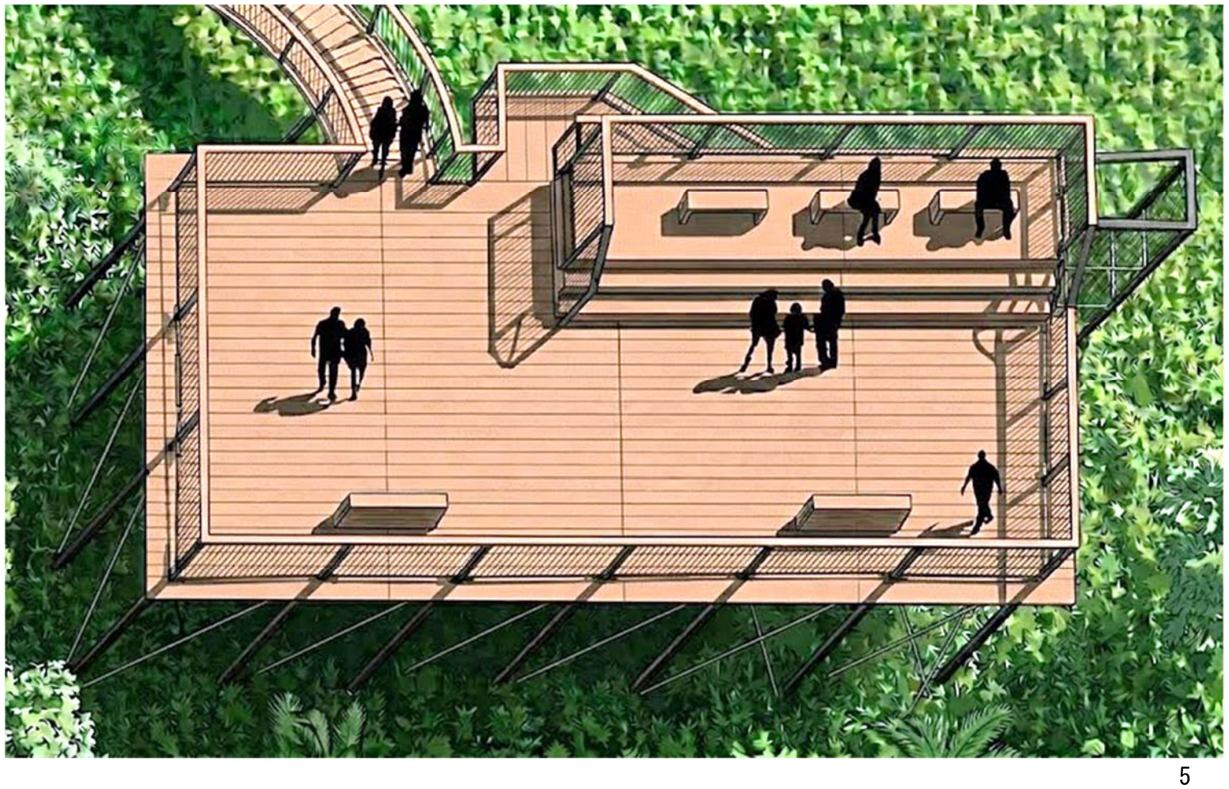
案③動線を遮る扉(腰高)



案②視線を遮る扉(踊り場)



案④立ち止まらせる仕切り

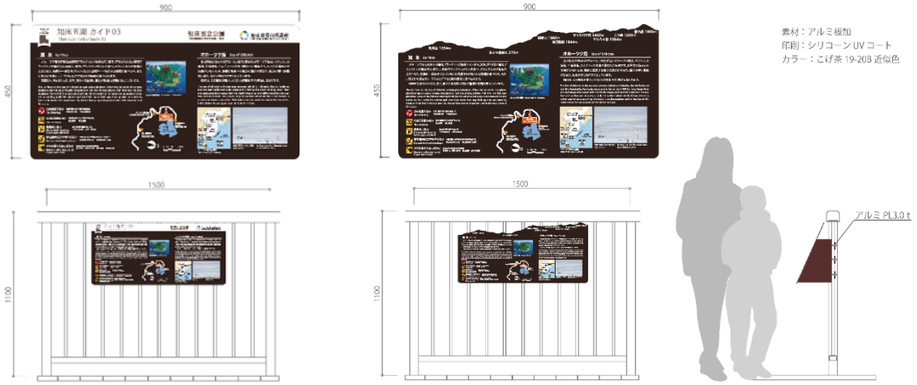


5）サイン計画

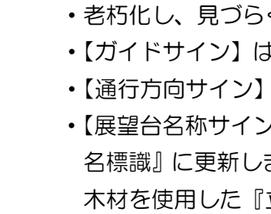
- 老朽化し、見づらくなったサイン類は全て更新します。
- 【ガイドサイン】は、図や文章を見やすくレイアウトできるよう、表示面を大きくします。（待避所・展望台に設置）
- 【通行方向サイン】はプレートに変え、目に付きやすいようにします。また、距離表示板としての機能も加えます。
- 【展望台名称サイン】は、木製では劣化が早いことから、自然公園の指針で定められた耐久性のあるアルミ製の『記名標識』に更新します。なお、記念写真、団体写真の撮影スポットとなっている入口デッキや第三展望台には、再生木材を使用した『立体文字』も併せて設置します。
- 【注意サイン】は、「地上遊歩道には降りられない」というコメントと、「注意事項」に限って示すこととし、伝わりやすい表示内容づくりを行います。（ピクトサインの注意事項をイラスト化することも検討中）
  また、クマの目撃情報を園内の安全管理に活用するため、注意サインの背面や傍に設け情報を募ります。.
  注意サインは設置場所によっても視認性が変わることから、位置も含めて検討を進めています。（右下検討案）

【ガイドサイン】

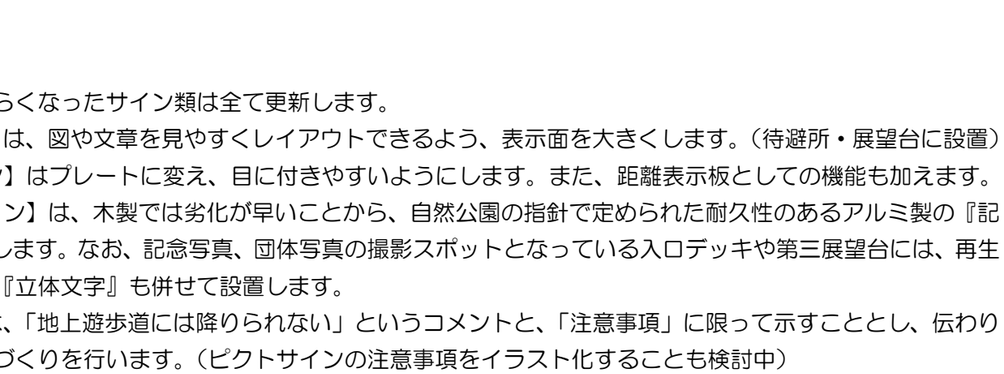
色あせた現状のガイドサイン。
細長い形状で、文字や図が
小さく見づらい。



【通行方向サイン】



床にペイントした進行方向サイン。
長持ちしないため、定期的に描く
必要がある。



【検討案：展望台名称サイン】

第一展望台から第三展望台に置
かれている老朽化した木製の名
称サイン。

【注意サイン】

本体：スチール＋再生木材
印刷：シリコーン UV コート

地上遊歩道の情報まで記載された注
意サイン。見逃されやすいため、設
置場所についても要検討。

【検討案：注意サインの位置】

現　　状

注意サインを手前に設置　　注意サイン①

注意サイン②

６）施工スケジュールについて

≪施工時期と年間の施工可能距離≫

関係者の皆さんからのヒアリングからは、工事は休園期間（11 月～３月）であれば、観光業への影響が少ないと伺ってます。

また、過去の実績をもとに、ひと冬で木道の撤去と更新できる距離については、100m程度の区間が妥当であると考えています。

平成 17 年度の冬工事のようす

そこで、高架木道全体の更新更新スケジュールは、以下のとおりを想定しています。

≪施工スケジュールの想定≫

■工程

・基礎周辺の地形調査/８月 → 工場制作/～10 月 → 施工/11 月～３月

■工事の開始場所

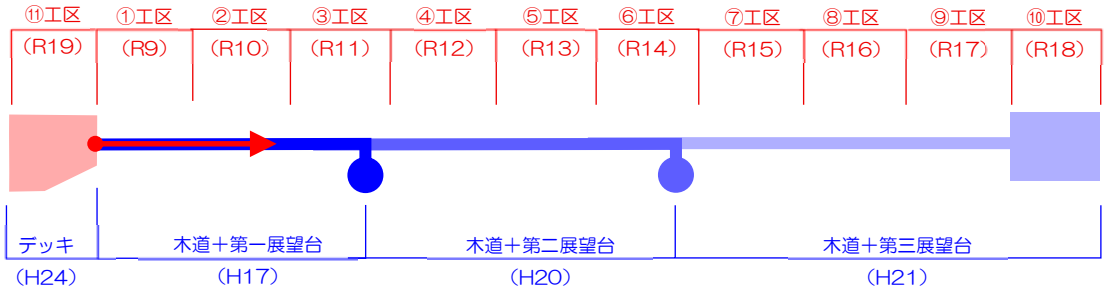
・案１：老朽化が進んだ木道から順次更新する。

・案２：景観スポットである第三展望台から更新しする。

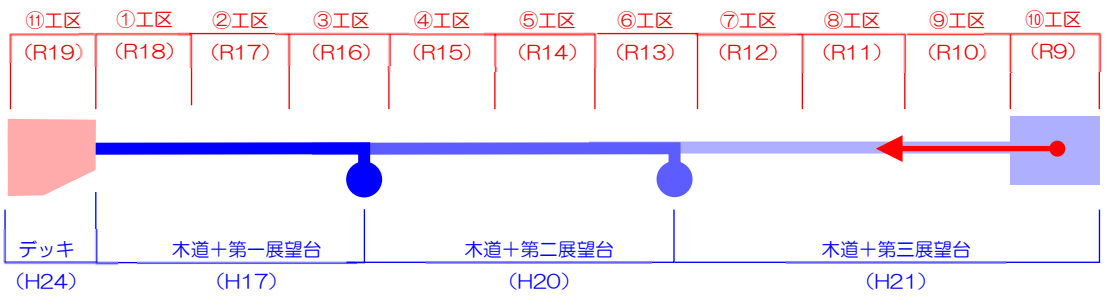
案１：入口側木道から更新の場合

・最も劣化が進んだ木道から更新を始める案です。古いものから更新するので、２案に比べ維持･修繕工事の費用は軽減できます。

・前年に完成した新しい通路を資材運搬道として使うため、傷や汚れが付きやすい。



案２：第三展望台から更新の場合

・見所である第三展望台の使い勝手がよくなります。

・劣化の進んだ古い木道を残すことなり、現状を維持する工事（補強や部分改修）の費用が増えてきます。